

約 70 万尾のマダイ稚魚放流

隠岐島前地域水産振興部会では、今年度も島前各地区に、約 70 万尾のマダイを放流しました。島前地域では、他地域と比較しても放流マダイの根付きが抜群に良く、大きな放流効果を上げています。

9 月には西ノ島小学校の 1 年生の子供たちと一緒に由良の漁協冷蔵庫前にて約 10cm、5,000 尾のマダイの放流を行いました。当日は天候が危がまれる中ではありましたが、なんとか開催することができ、島根県水産振興協会による説明やクイズをして、マダイや栽培漁業について学習して頂いたうえで、放流を行いました。元気に海中へ泳いでいくマダイ稚魚を、子供たちは「大きくなって戻ってきてね」と手を振りながら名残惜しそうにいつまでも見送っていました。

● お願い ●

放流したマダイは、しばらくの間人間の手で餌付けされておりますので、人間に対する警戒心が薄く、簡単に釣り上げられてしまいます。

マダイは島前地域共通の大切な資源です。15cm以下のマダイを釣り上げた際は、大きく育つよう放してあげてください。みなさんのご協力をよろしくお願いします。

地域振興課



島前病院 だより

～ 新人紹介 ～

名前：浄見 可奈子（きよみ かなこ）

出身：栃木県

8月から島前病院で働かせてもらっています。海に囲まれた島の生活をとても新鮮に感じています。病院職員の一員として島の皆様の健康を守るお役に立てればと思っています。半年間という短い期間ですがどうぞよろしくお願いします。

名前：貢 尚子（みつぎ なおこ）

出身：福岡県

私は、ジャパンハートという医療ボランティア団体の僻地・離島研修で西ノ島へ来させていただきました。初めての島暮らしに最初は慣れずにはじめましたが、島民の方々の優しさ、温かさに触れ、毎日癒されています。

名前：近藤 睦子（こんどう むつこ）

出身：鹿児島県

隠岐の自然に感動してやってきました。離島での生活は初めてであつという間に2ヶ月が過ぎました。不慣れではありますが、よろしくお願いします。



ロシアからの温かい贈り物

今年4月29日ロシア沿海地方青少年交流グループが、西ノ島小学校を訪問した際に、小学生の対応にとっても感動した一人の女性がその時の気持ちを伝えたいと、ロシアの女性がブラウスの上に着るジャンパースカートのような民族衣装「サラファン」を3枚預かり小学校に贈呈しました。

これはリュドミーラさんの手作りです、イベントなどの時にはぜひ使ってください、とのことでした。

ウラジオストクから23名が来島した時に「隠岐はどこに行っても住民が温かく歓迎してくれて又ぜひ訪れたい」と多くの方々からお礼の言葉をいただきました。

ウラジオストク国立経済大学付属ドゥビニン記念学校を訪れた際には、マトリョーシカの絵を描いてプレゼントされましたのでこれも西ノ島小学校に贈呈しました。

総務課



サラファンを持つリュドミーラさん



贈呈されたサラファンを着て記念撮影（西ノ島小学校）

▲ ロシア・ウラジオストクにて「2013 SHIMANE Week in ウラジオストク」という事業が9月1日～7日まで行われ、会場には西ノ島の小学生が描いた絵や石見神楽の大蛇などを展示してきました。現地ではテレビ局の取材を受け、朝夕のニュース番組の中でこれらの絵や隠岐のポスター等も放映されました。

わがとこの文化財

7月25日に珍崎地区にお住まいの小櫻 秀さんが複数所有する珪化木（けいかぼく）の中から1番大きなもの1点が西ノ島町の文化財（天然記念物）として新たに指定されました。

この珪化木の大きさは縦の長さが約40cm、横の長さが37cm、重さは50kg以上のものです。

<西ノ島町文化財保護審議会会長の口村光房氏の説明>

「小櫻氏は平成20年頃珍崎の河川工事で出た珪化木を持ち帰り大切に保管されていました。その後、珍崎地区には石垣や基礎石に使われているのが見つかったことから、たくさんあったと思われます。

珪化木は各地にあり、島後の八尾川の河原に多く存在しています。しかし、珍崎に存在することは地質学上大きな意味があります。それは、珍崎地区が大昔大木が生茂る陸地でしたが、やがて焼火山の噴火で地中深く埋もれてしまい、それが焼火山の陥没で島前カルデラ（元スペイン語で大きい釜の意味）ができた時、再び地上に姿を見せたことを意味しています。（その後、焼火山は再び噴火して、今の姿になった。）

また、市部地区には、大昔、海の底であったことを示す貝の化石を含む市部層と呼ばれる地層があり、私たちの住む島が悠久の時間の中で大陸の一部であったり、湖や海の底であったり、溶岩に覆われたりした歴史を、この石のかけらにしか見えない珪化木が語りかけてきます。」

教育課

約37cm



約40cm

【珪化木（けいかぼく）】

木化石とも呼ばれるように、古代に何らかの原因で土砂等に埋もれた樹木が、膨大な年月をかけ地層にかかる圧力により木の細胞組織の中にケイ素と酸素、水素との化合物であるケイ酸を含有した地下水が入り込むことによって、樹木が原型を変えずに二酸化ケイ素という物質に変化することで石英や水晶などと同様に固くなり、化石化したものです。